

文理融合系学部の実状と課題

株式会社ベネッセ i-キャリア
まなぶとはたらくをつなぐ研究所
主席研究員 村山 和生

株式会社ベネッセ i-キャリア

村山 和生 (むらやま かずお)

- 株式会社ベネッセ i-キャリア まなぶとはたらくをつなぐ研究所 主席研究員
- (兼務先)「Between」編集委員
- (経歴) ベネッセ教育総研 シニアコンサルタント／「VIEW21大学版」編集長／一般財団法人大学IR総研 副事務局長

Between 情報サイト

大学の課題解決をサポート

ベネッセ 教育情報サイト

子育て・教育・受験・英語まで網羅したベネッセの総合情報サイト

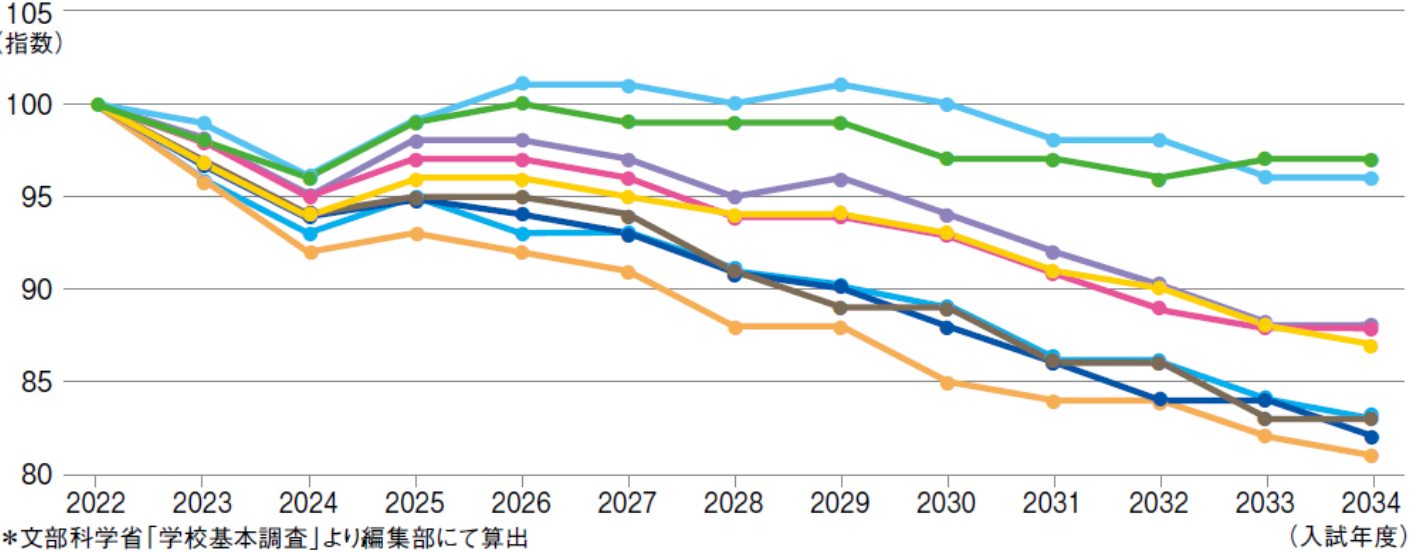
VIEWnext ONLINE
未来を拓く教育情報 & オピニオン
ビューネクスト オンライン



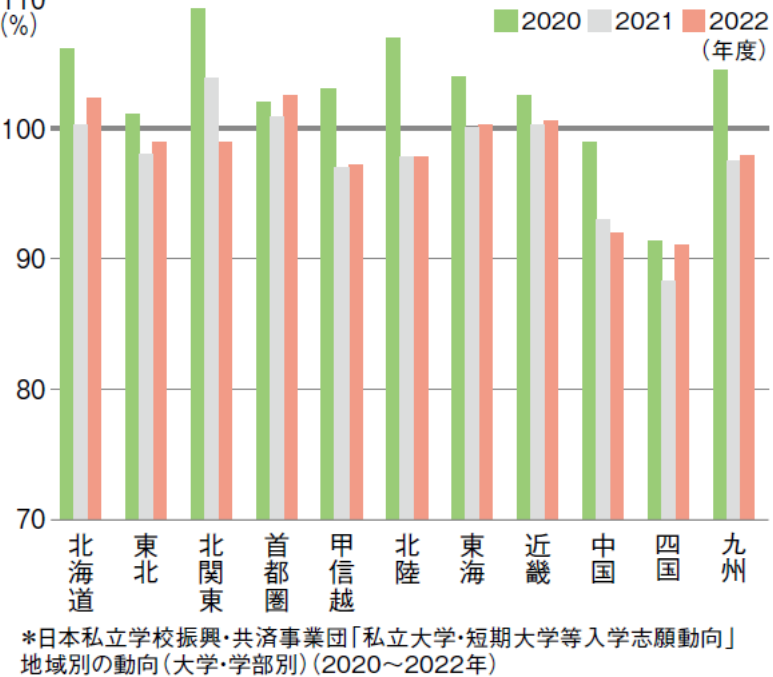
- 1. 「文理融合系学部」を取り巻く環境の整理**
- 2. 「文理融合系学部」の現状と大学生の変化**
- 3. 「文理融合系学部」の学びと社会での活躍**

- 1. 「文理融合系学部」を取り巻く環境の整理**
2. 「文理融合系学部」の現状と大学生の変化
3. 「文理融合系学部」の学びと社会での活躍

【図表1】エリア別18歳人口指数推移予測 (2022年度を100とした場合)



【図表3】私立大学 エリア別入学定員充足率(3か年)



* Between「特集：みんなで挑む！人口減」(2023年No.308)

我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について

教育未来創造会議 第一次提言

人
材
育
成
を
取
り
巻
く
課
題

- ・高等教育の発展と少子化の進行（18歳人口は2022年からの10年間で9%減少）
- ・デジタル人材の不足（2030年には先端IT人材が54.5万人不足）
- ・グリーン人材の不足（2050カーボンニュートラル表明自治体のうち、約9割が外部人材の知見を必要とする）
- ・高等学校段階の理系離れ（高校において理系を選択する生徒は約2割）
- ・諸外国に比べて低い理工系の入学者（学部段階：OECD平均27%、日本17%、うち女性：OECD平均15%、日本7%）
- ・諸外国に比べて少ない修士・博士号の取得者（100万人当たり修士号取得者：英4,216人、独2,610人、米2,550人、日588人
博士号取得者：英375人、独336人、韓296人、日120人）
- ・世帯収入が少ないほど低い大学進学希望者
- ・諸外国に比べて低調な人材投資・自己啓発（社外学習・自己啓発を行っていない個人の割合は、諸外国が2割を下回るのに対し、我が国は半数近く）
- ・進まないリカレント教育

基
本
理
念

- ・日本の社会と個人の未来は教育にある。教育の在り方を創造することは、教育による未来の個人の幸せ、社会の未来の豊かさの創造につながる。
- ・人への投資を通じた「成長と分配の好循環」を教育・人材育成においても実現し、「新しい資本主義」の実現に資する。

社
会
像
在
り
た
い

- ◎ 一人一人の多様な幸せと社会全体の豊かさの実現（ウェルビーイングを実現）
- ◎ ジェンダーギャップや貧困など社会的分断の改善
- ◎ 社会課題への対応、SDGsへの貢献（国民全体のデジタルリテラシーの向上や地球規模の課題への対応）
- ◎ 生産性の向上と産業経済の活性化
- ◎ 全世代学習社会の構築

目
指
し
た
い
人
材
育
成

◎ 未来を支える人材像

好きなことを追究して高い専門性や技術力を身に付け、自分自身で課題を設定して、考えを深く掘り下げ、多様な人とコミュニケーションをとりながら、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていく人材

<高等教育で培う資質・能力>

リテラシー/論理的思考力/規範的判断力/課題発見・解決能力/未来社会を構想・設計する力/高度専門職に必要な知識・能力

◎ 今後特に重視する人材育成の視点 ⇒ 産学官が目指すべき人材育成の大きな絵姿の提示

- ・ 予測不可能な時代に必要な文理の壁を超えた普遍的知識・能力を備えた人材育成
- ・ デジタル、人工知能、グリーン（脱炭素化など）、農業、観光など科学技術や地域振興の成長分野をけん引する高度専門人材の育成
- ・ 現在女子学生の割合が特に少ない理工系等を専攻する女性の増加（現在の理工系学生割合：女性7%、男性28%）
- ・ 高い付加価値を生み出す修士・博士人材の増加
- ・ 全ての子供が努力する意思があれば学ぶことができる環境整備
- ・ 一生涯、何度でも学び続ける意識、学びのモチベーションの涵養
- ・ 年齢、性別、地域等にかかわらず誰もが学び活躍できる環境整備
- ・ 幼児期・義務教育段階から企業内までを通じた人材育成・教育への投資の強化

現在35%にとどまっている自然科学（理系）分野の学問を専攻する学生の割合についてOECD諸国で最も高い水準である5割程度を目指すなど具体的な目標を設定

→ 今後5~10年程度の期間に集中的に意欲ある大学の主体性を生かした取組を推進

* 教育未来創造会議「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）」（2022年5月10日）

総則等理念規定の明確化について

- 3ポリシーに基づく教育課程の編成等や自己点検・評価、認証評価の結果を踏まえた不断の見直しを行う旨、規定上明確化

教育研究実施組織等について

- 必要な教員及び事務職員等からなる教育研究実施組織の編制など、教員と事務職員等の関係を一体的に規定

基幹教員制度について

- 従前の設置認可審査における専任教員の考え方等も踏まえながら「基幹教員」として定義を明確化するとともに、必要最低教員数の算定においては、複数の大学・学部での算入も可能（4分の1まで）とすることなどを規定

指導補助者について

- 当該大学の学生その他の大学が定める者に授業を補助させることができる旨などを確認的に規定
- 質保証の観点から、授業を補助させること等ができる当該大学の学生その他の大学が定める者について、研修を実施することを新たに義務付け
- また、教職協働の促進の観点から、改正前の大学設置基準上では離れた位置に規定されていたSD・FD関係の規定も集約

授業期間について

- 改正前の「定期試験等の期間を含め」との規定を削除
- 授業期間を10週又は15週を原則とするとの考え方を改め、大学の判断により多様な期間（8週、10週、15週を例示）が設定できること等を明確化

単位の計算方法等について

- 1単位に必要な授業時間数について、授業方法別に基準を定めた規定を廃止
- 従来の整理に即し、レポート等も含めた多様な学修評価方法により、単位を与えることを明確化

卒業要件の明確化について

- 「大学に四年以上在学し」の規定を削除するなどの改正を行う

校地、校舎等の施設及び設備について

- 校地（空地）について、教員と学生、学生同士の交流の場としての役割についても明確化
- 運動場・体育館等のスポーツ施設、講堂、寄宿舍・課外活動施設等の厚生補導施設について、必要に応じ設ける施設として一般化
- 教育研究上の機能として必要となる教室、研究室等は列記しつつ、大学は、その組織及び規模に応じ、教育研究に支障のないよう、必要な施設を備えた校舎を有するものとするを規定
- 研究室の整備は基幹教員に加え、従来の授業を担当しない専任教員も対象に
- 図書館を中心に系統的に整備する資料の例示として、電子ジャーナル等を念頭に「電磁的方法により提供される学術情報」を加えるほか、図書館に閲覧室、整理室等を備えることを求める規定を削除するなどの改正を行う

教育課程等に係る特例制度について

※要申請

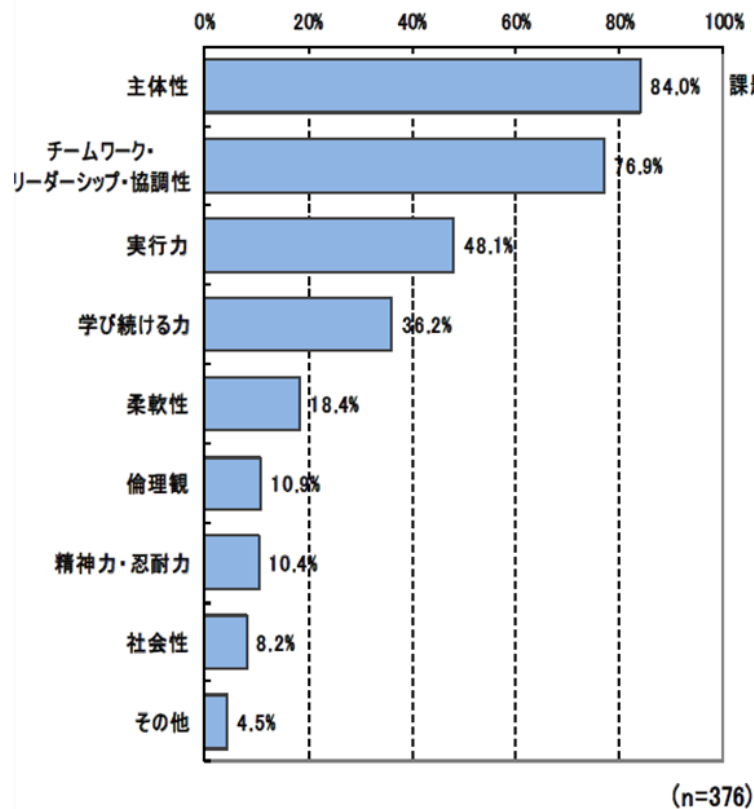
- 内部質保証等の体制が十分機能していること等を要件として、教育課程等に係る特例対象規定の一部又は全部によらないことができる特例制度を新設

経過措置について

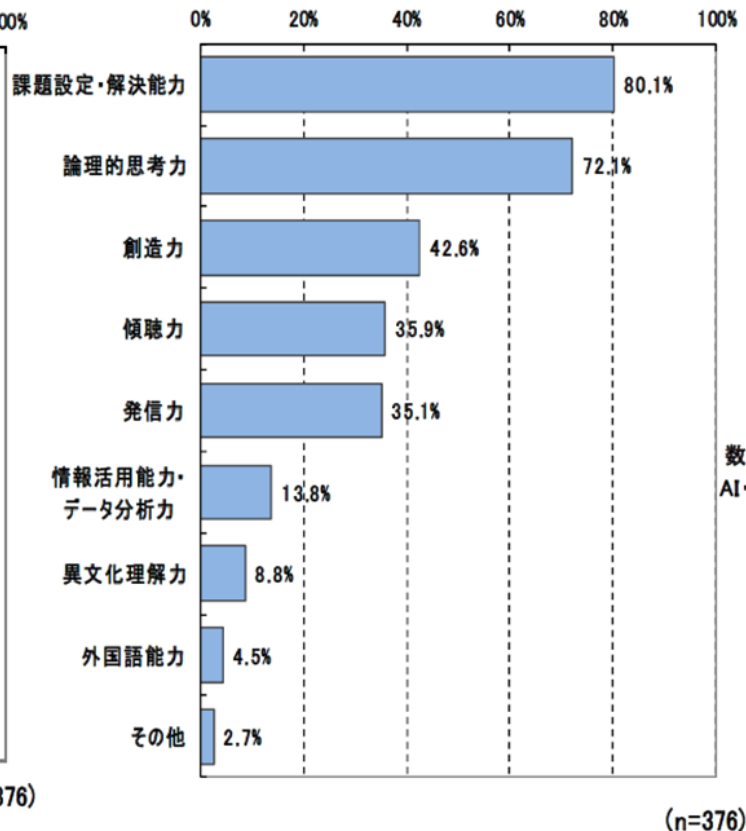
※全面適用は令和7年度から

- 現に設置されている大学等に対する「基幹教員」「校舎」「研究室」の規定の適用については、従前の例によること（特に期限はありません） … など

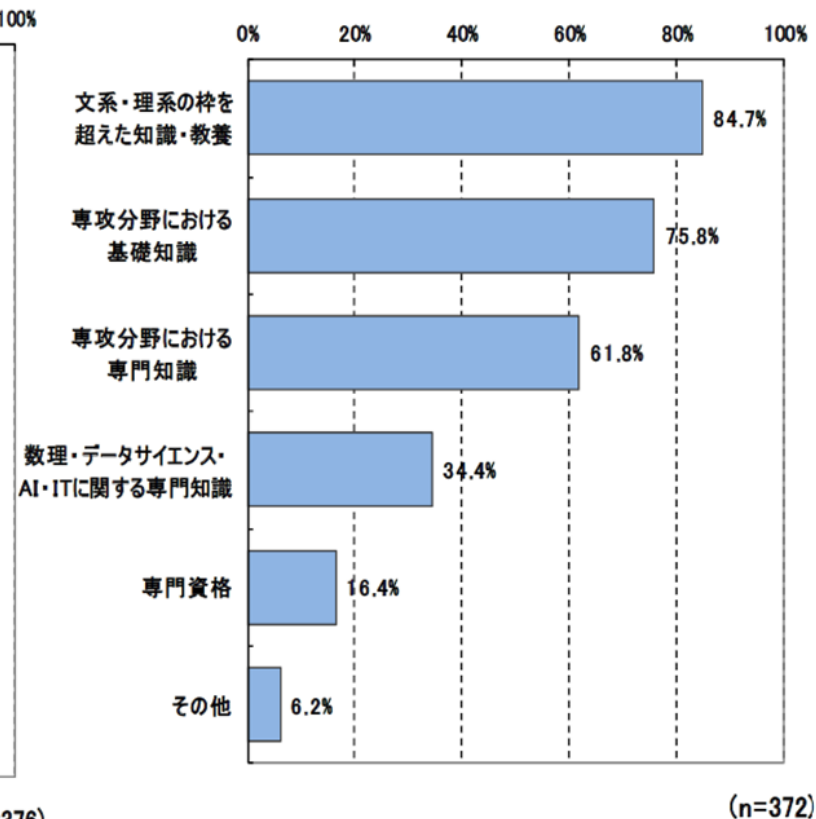
＜特に期待する資質＞



＜特に期待する能力＞



＜特に期待する知識＞



注: 資質・能力・知識についてそれぞれ3つまで選択可能

* 日本経済団体連合会「採用と大学改革への期待に関するアンケート結果」(2022年1月18日)

Ⅲ. 新しい時代への対応に向けて経済界が期待する大学教育改革

3. 今後、重視すべき教育内容

文理融合教育・STEAM教育・リベラルアーツ教育

- ✓ これらの教育と専門教育とをバランスよく学修（教育の両輪）
- ✓ 人文科学・社会科学・自然科学を幅広く学修する教育プログラム、メジャー・マイナー、ダブル・メジャー、学部、研究科等の組織の枠を越えた学位プログラム等

グローバル化に対応した大学教育、海外留学、海外大学との教育連携

- ✓ 大学自体のグローバル化、海外大学との教育研究ネットワーク構築を推進
- ✓ 双方向の留学生交流を一層推進
- ✓ オンラインと実留学を組み合わせた多様な留学機会の提供、奨学金充実など留学支援を強化
- ✓ コロナが収束した段階で外国人留学生の入国制限を緩和
- ✓ 英語で履修できるカリキュラム拡大や学生の英語力の向上、外国人留学生へのキャリアサポート等により魅力ある留学先に
- ✓ 秋季入学・卒業の導入など学事暦改革の推進

リテラシーとしての数理・データサイエンス・AI教育

- ✓ リテラシーレベルの数理・データサイエンス・AI教育プログラムを必修科目として位置付け
- ✓ 幅広い大学で「情報Ⅰ」を入試科目に追加

キャリア教育等

- ✓ 「産学協働で取り組む学生のキャリア形成支援」(*)を推進
※産学協議会4類型
- ✓ 地域企業と学生をつなぐインターンシップの機会を提供

PBL等の課題解決型教育

- ✓ PBLに関するノウハウを関係教員間で共有。教員研修を実施
- ✓ 大学と企業等を結ぶコーディネータ人材の育成・配置、実務家教員の登用を促進

起業家教育

- ✓ 政府は起業家人材のプラットフォームを構築。幅広い大学で起業経験者がゲスト講師として登壇
- ✓ 各大学は、リカレント教育として、社会人に起業を促すプログラムを開発・普及

リカレント教育

- ✓ 各大学は、経済界のニーズを踏まえつつ、リカレント教育プログラムを充実。オンラインの活用により、時間と場所に縛られない多様な履修形態を可能とすることが肝要
- ✓ 企業は、受講する社員の経済的支援や休業・休暇制度の導入を検討
- ✓ 産学連携によりリカレント教育プログラムを共同開発・実施する大学や、質の保証されたリカレント教育プログラムを実施する大学等に対し、国は財政面や教員確保等の支援など、環境整備を図るべき

8

* 日本経済団体連合会「新しい時代に対応した大学教育改革の推進－主体的な学修を通じた多様な人材の育成に向けて－」（2022年1月18日）

企業に聞く！



パナソニック オペレーショナル
エクセレンス株式会社
リクルート&キャリアクリエイト
センター採用部
部長

小幡 寛齊

DX・GXで求められるのは しっかりとした専門性と「越境体験」

求めるのはDX・GXを専門的に学んだ人より 専門分野とDX・GXとの関わりを知る人

パナソニックグループ全体の人材採用を弊社で受け持っています。新卒者として学部生、大学院生を例年800～1000人規模で採用。うち半数以上が、理系の技術職です。

選考では、主に経営理念への共感度合いと、学んできた技術の高さ、それを説明する能力を見ています。DX・GXを事業の主軸に据えるからと言って、採用要件は原則、変わりません。欲しいのはあくまで、何らかの技術分野で専門性を持つエンジニア。機械、電子、情報、化学、材料といった各学問の専門性を、入社後、いかにDX・GXに生かせるかが重要です。技術者の獲得競争が激しい状況下、理系人材を増やす教育改革には期待したいですが、DX学部、GX学科といった「くくり」そのものには、あまり魅力を感じません。どんな学部・学科であろうと、まずはその学問分野における専門性を持ち、社会の課題解決とのつながりをしっかり考えられる学生が増えることに期待します。

DX・GXそれぞれが、文系、理系という区分や、単独の技術開発だけでは対応できないテーマです。そのため、新卒採用市

場全体を見渡しても、例えばシステムエンジニアリングやビジネスデザイン*5といった、文理を超えた「越境エリア」の素養を持った人材へのニーズが高まっていると感じています。ただし、「越境エリア」という学問領域があるわけではないので、学生には、自身の学部・学科で専門性を磨きながら、それが社会とどうつながるのかを実感する体験を大学時代に積み上げてほしいですね。

そのためにも、産業界と学校の垣根をもっと下げていきたい。弊社でも、2022年度は、約2週間の職場実習型インターンシップの受け入れ枠を前年の2倍にあたる約1000人に拡大、2023年度は1200人以上に広がります。また、高校生、高専生、大学生向けに提供するキャリア形成支援プログラム*6を拡充したり、小学生向けのスクラッチを使ったプログラミング講座を提供したりしています。そして、さらなる越境のために、複数の企業や大学によるコンソーシアム型の取り組みも必要だと考えています。

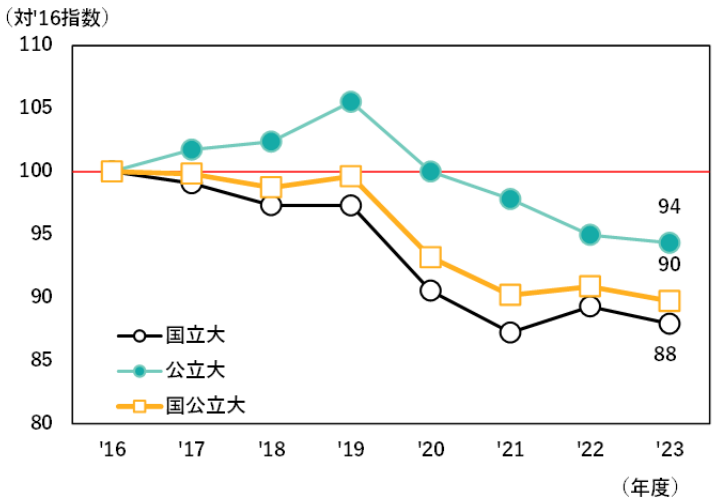
一方で、DX・GXに対応するには、一定レベル以上のデータを扱う力が不可欠になっています。最低でも、高校で学ぶレベルの統計や情報の知識が十分に身に付いていることが求められます。今後は、文理を問わず、どのような学部の教育であっても、必須の基礎的なリテラシーになるのではないのでしょうか。

* Between「特集：教育改革と学生募集」（2023年No.309）

1. 「文理融合系学部」を取り巻く環境の整理
- 2. 「文理融合系学部」の現状と大学生の変化**
3. 「文理融合系学部」の学びと社会での活躍

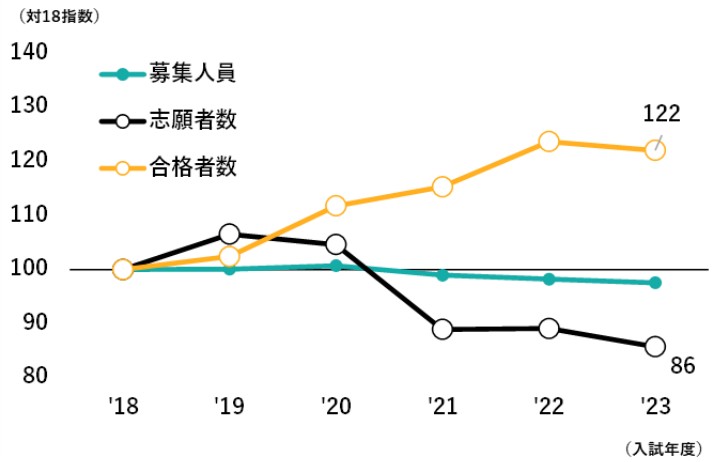
2023年度大学入試概況（志願者数/受験者数）

国公立大の一般選抜の志願者推移



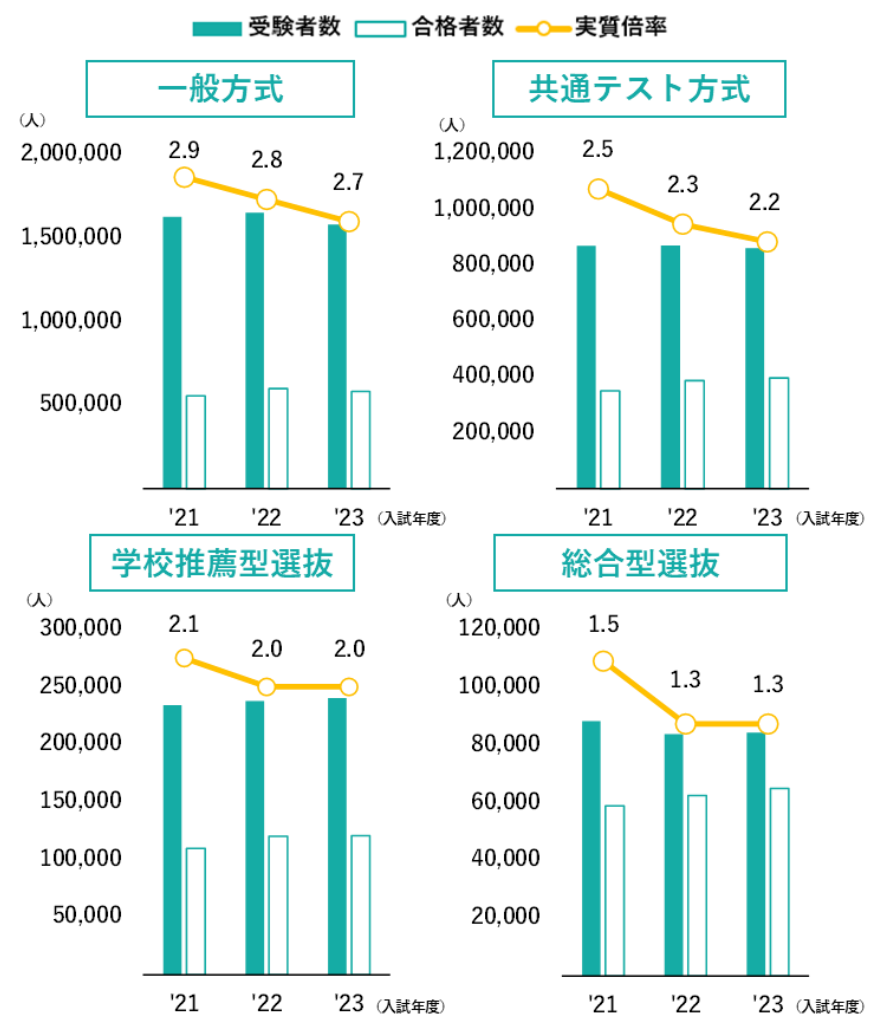
* 文部科学省「国公立大学入学者選抜確定志願状況」をもとに作成。
* 独自日程を除く。

私立大の一般選抜の志願者数の推移



* 各年度5月中旬までに弊社で確認した情報をもとに集計。

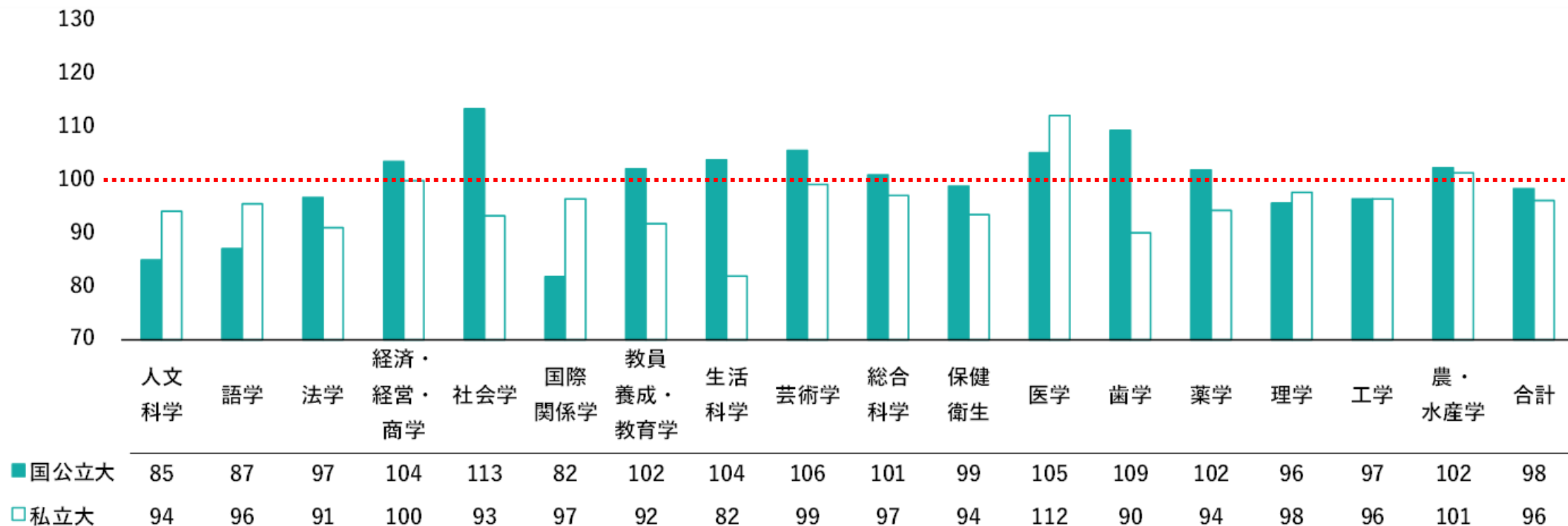
入試方式別の受験者数の推移



* 各年度5月中旬までに弊社で確認した情報をもとに集計。
* 二次二期は含まない。

* ベネッセコーポレーション教育情報センター「2023年度入試結果第1回出願指導WEB研究会 詳細分析レポート」(2023年6月)より

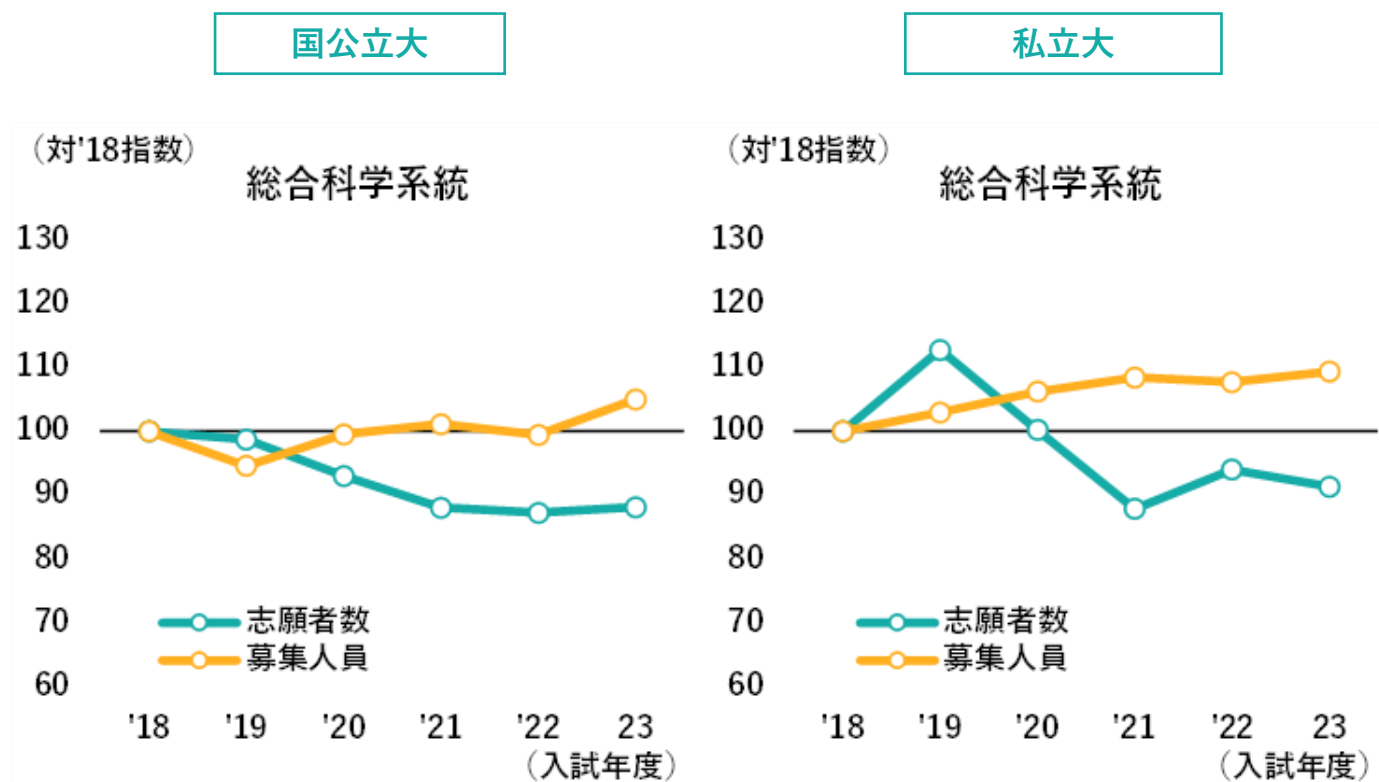
学部系統別の志願状況（一般選抜）



* 志願者、募集人員の数値は前年の志願者数、募集人員を100とした際の指数。

* 弊社調べ。5月中旬までに確認した情報をもとに集計。

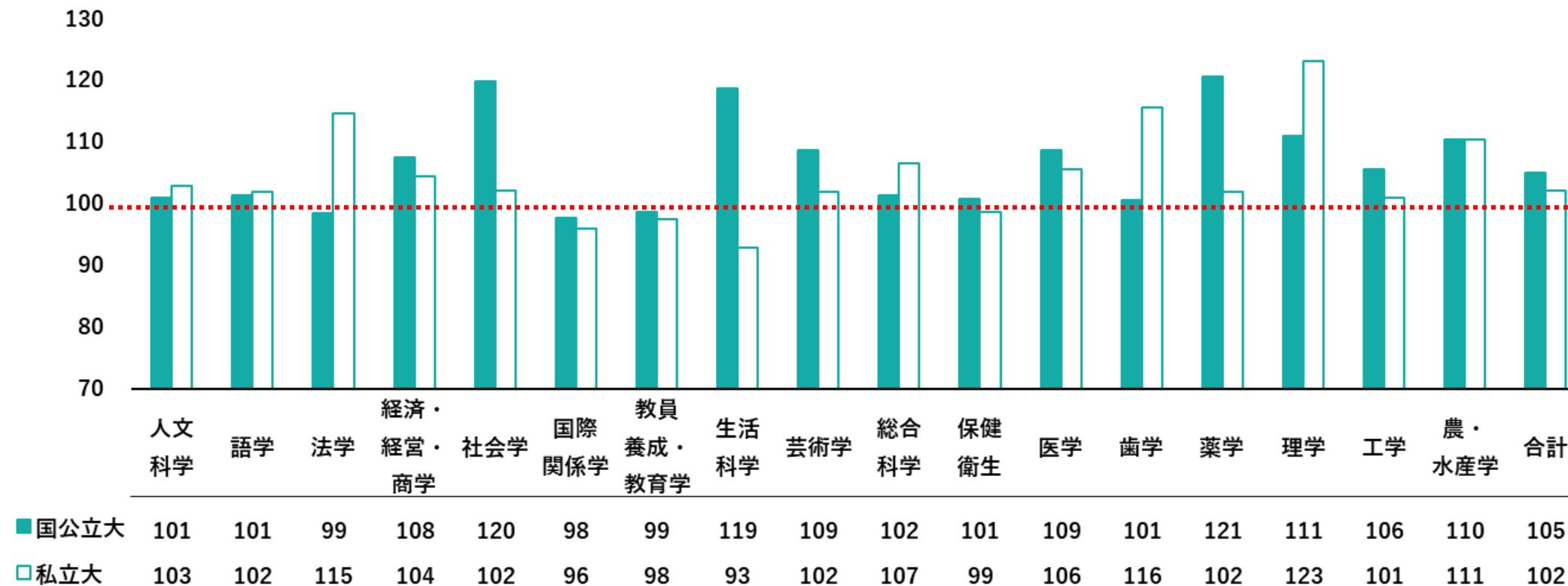
* ベネッセコーポレーション教育情報センター「2023年度入試結果第1回出願指導WEB研究会 詳細分析レポート」（2023年6月）より



* 各年度の5月段階で弊社が収集した数値を元に作成。

* ベネッセコーポレーション教育情報センター「2023年度入試結果第1回出願指導WEB研究会 詳細分析レポート」（2023年6月）より

学部系統別の志願状況（学校推薦型・総合型選抜）



* 弊社調べ。5月中旬までに確認した情報をもとに集計。

* ベネッセコーポレーション教育情報センター「2023年度入試結果第1回出願指導WEB研究会 詳細分析レポート」（2023年6月）より

幅広く学びたい

- ✓ 興味の幅が広い
- ✓ 専門を入学後に決めたい
- ✓ 将来をゆっくり考えたい

…など

➡ **他の学部系統と幅広く併願**



実践的な課題解決力を身に付けたい

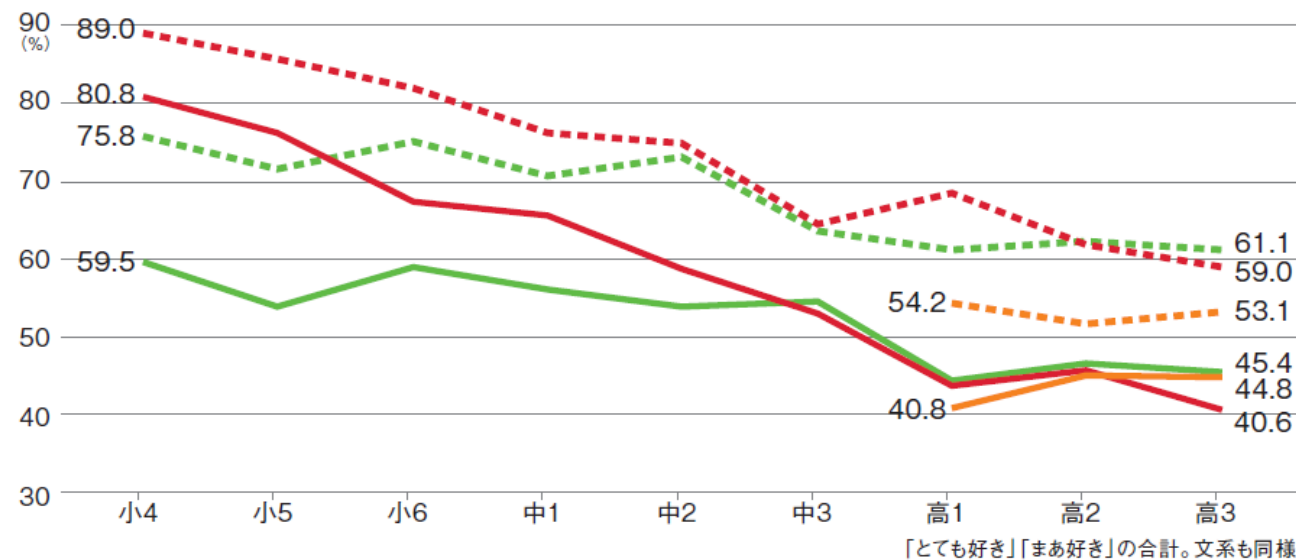
- ✓ 解決したい社会課題がある
- ✓ 「何が身に付くか」に興味がある
- ✓ 「総合的な探究の時間」での経験を深めたい

…など

➡ **教育プログラムで志望校を選択**

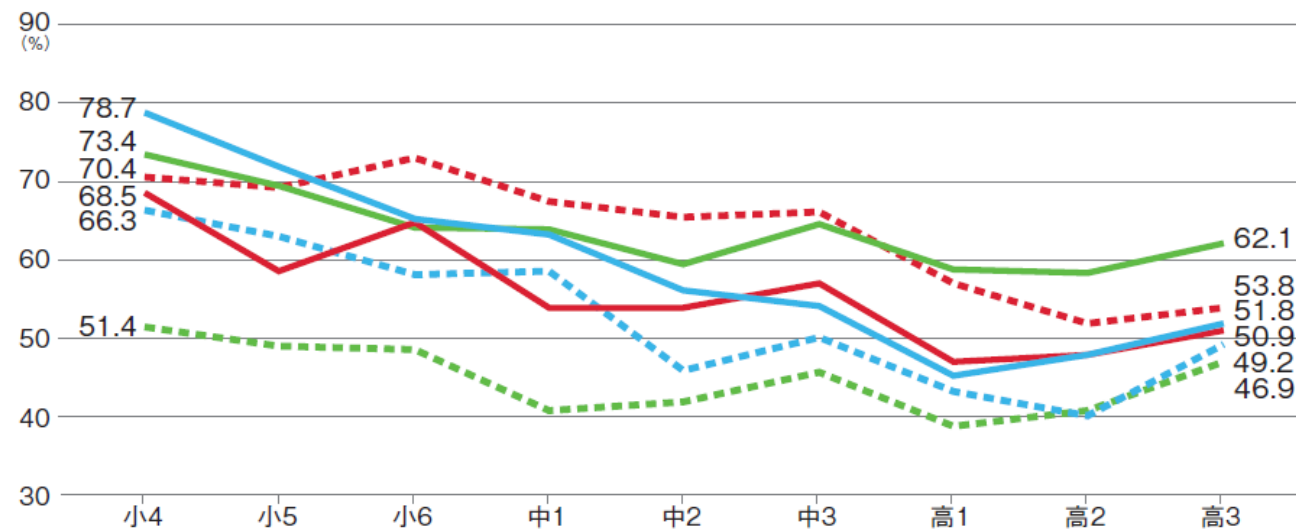
理系教科

- 【男子】算数・数学
- 【男子】理科
- 【男子】情報
- 【女子】算数・数学
- 【女子】理科
- 【女子】情報



文系教科

- 【男子】国語
- 【男子】社会
- 【男子】英語
- 【女子】国語
- 【女子】社会
- 【女子】英語



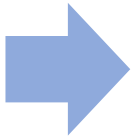
*数学は、小6までは「算数」。社会は、高校では「地理歴史・公民」。英語は、小4では「外国語活動」、小5・6では「外国語」
 *東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2022」(2023年)

	高校3年間	大学1年生
2019年度入学生	通常授業	通常授業
2020年度入学生	通常授業	コロナ禍
2023年度入学生	コロナ禍	コロナ緩和

高校時代の過ごし方や、大学入学時の環境によって、大学に対する期待などが変化するのではないか

- 入学時にコロナ禍の影響を受けなかった学年（2019年度）との比較
- 入学時にコロナ禍の影響を受けた学年（2020年度）との比較
- 高校3か年間すべてコロナ禍だった学年（2023年度）は、それまでの学年との違いはあるか

仮説



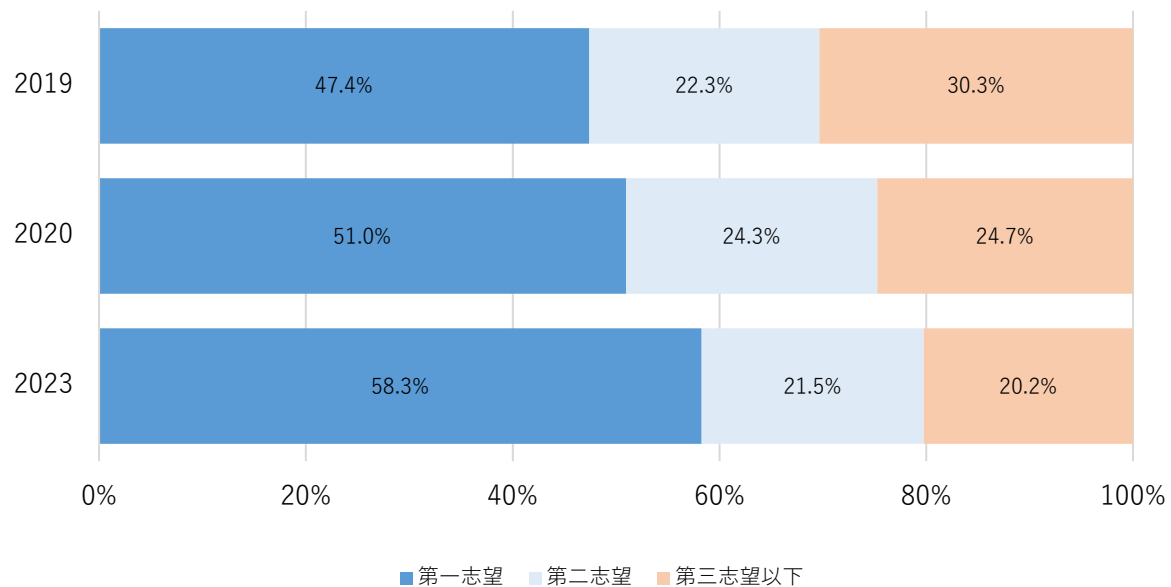
直接評価
(スコア)

間接評価
(達成率&回答)

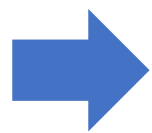
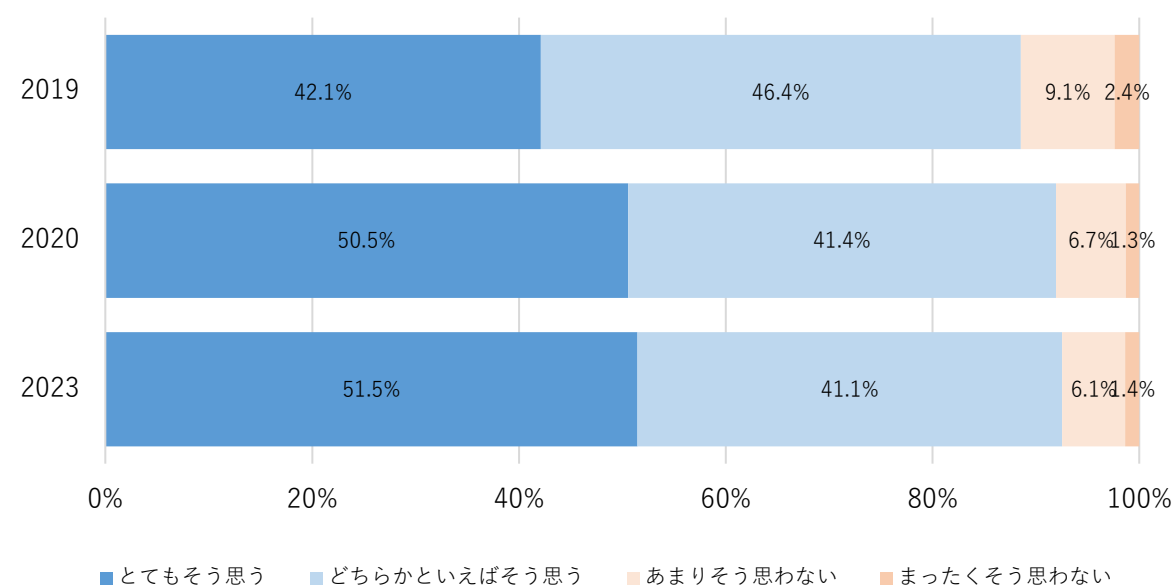
大項目	測定項目	下位項目	内容	目安時間	新・社会人基礎力	学力の3要素
考え抜く力 思考スキル	思考力総合スコア (問題を解決する思考スキル)	批判的思考力	情報を抽出し吟味する力 ★論理的に組み立てて表現する	45分	考え抜く力	思考、判断、表現力
		協働的思考力	他者との違い、共通点を理解する力 ★社会に参画し人と関わる			
		創造的思考力	情報を関連付ける力 ★問題をみいだし解決策を生み出す			
他者と関わり合いながら働く力 姿勢・態度	レジリエンス (精神的なタフさ)	ストレス耐性	感情の制御	10分	チームで働く力	主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度
		回復力	立ち直りの早さ			
		自己統制力、柔軟性	状況に応じ冷静に対応する			
	リーダーシップ (物事に向かう前向きさ)	自主性、率先性	自ら先頭に立って進める	5分	前に踏み出す	主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度
		チャレンジ精神、開放性	未知の物に挑戦する			
		持続力、誠実性、勤勉性	粘り強くやり抜く			
前に踏み出す 経験	経験総合 (認識している問題解決の経験)	自己管理	挑戦する経験 続ける経験 ストレスに対処する経験	20分		
		対人関係	多様性を受容する経験 関係性を築く経験 議論する経験			
		計画・実行	課題を設定する経験 解決策を立案する経験 実行・検証する経験			
何を学ぶか、どのように学ぶか どう活躍するか アンケート	学生意識調査 全国標準アンケート	新入生版	大学納得度・志望度、退学検討 教育力認識、大学観 など	20分		
		在校生版	大学満足度、カリキュラム評価、 イメージ変化、授業役立ち度、など			
		+大学独自設問	選択設問15問、自由記述3問			

★記述式で測定

大学志望度



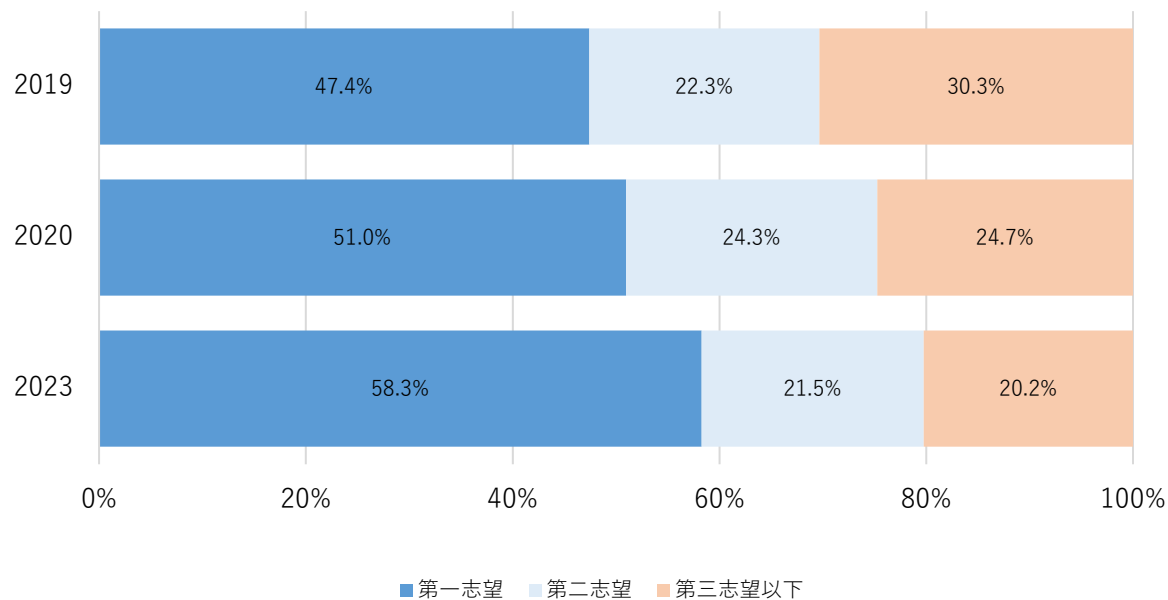
大学納得度



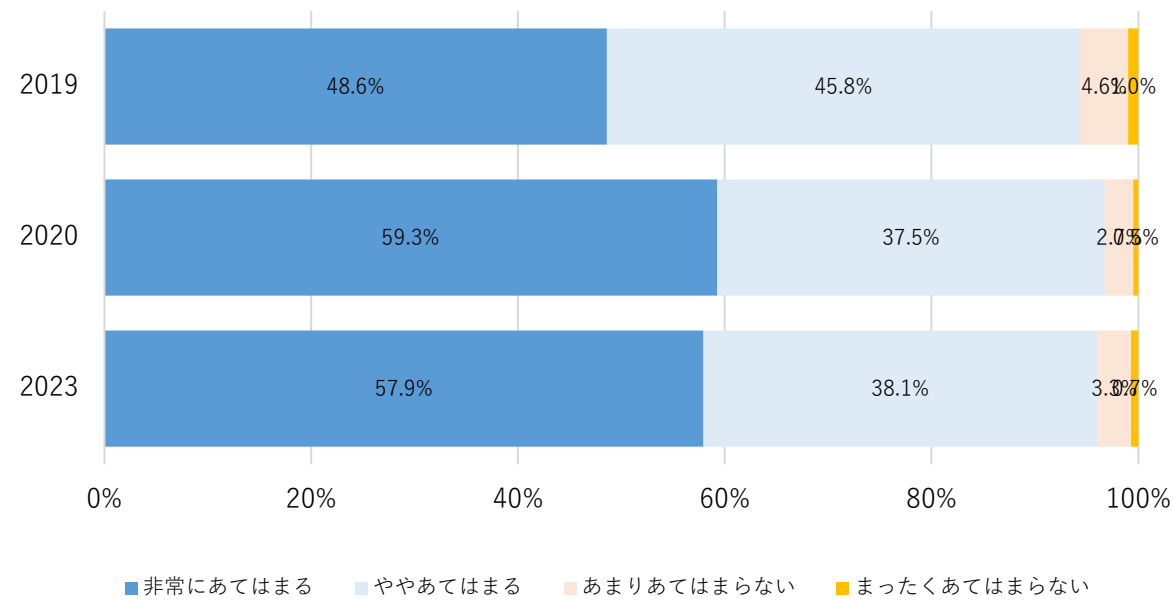
「第一志望」の比率は上昇するも、「大学納得度」には変化なし

- 【検証すべき観点】 2023年度の「第一志望」はどのような学生か／進学先を何で決めたか…など
- 【仮説】 2023年度新入生は、大学に対する理解度が不十分なまま進学先を決めていたのではないかと推察（例：オープンキャンパスに満足に参加できていない、など）

大学志望度

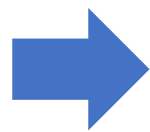


あなたが通う大学で、自分の将来に必要な学びを得ることができると思う

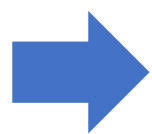
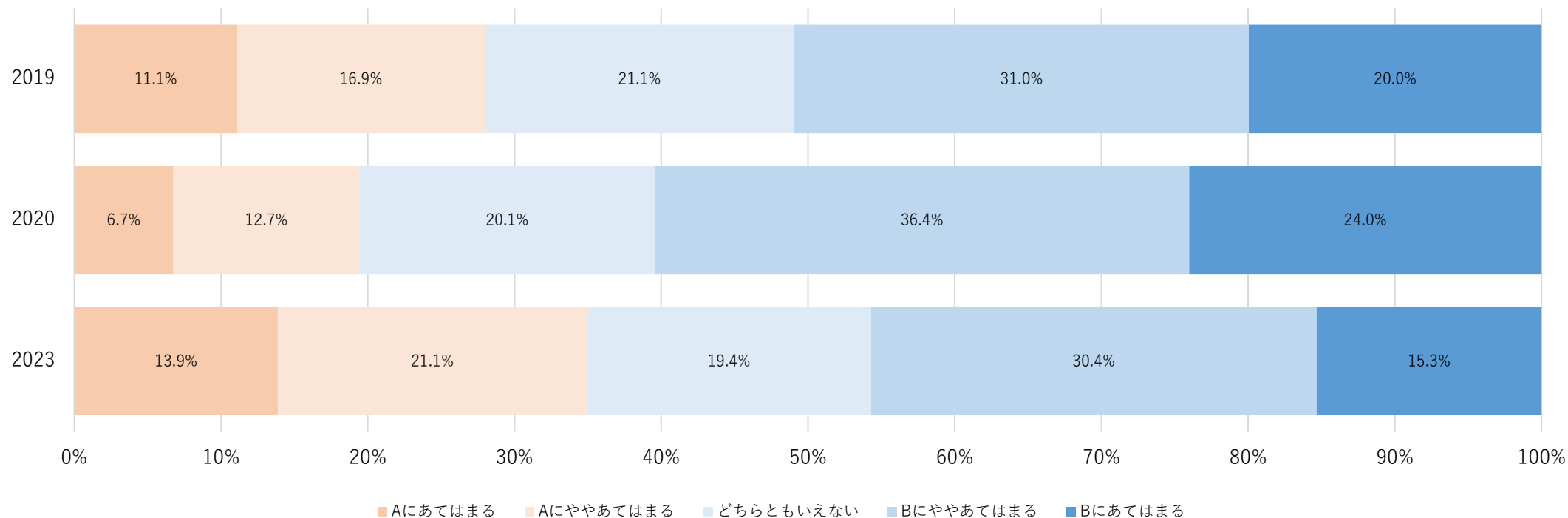


「第一志望」の比率は上昇するも、「必要な学びを得られる」には変化なし

- 【検証すべき観点】 2023年度の「第一志望」はどのような学生か／希望進路に変化はないか…など
- 【仮説】 2023年度新入生は、自分の将来と大学の学びを結び付けて考える機会が限られていたのではないかと推察（例：オープンキャンパスの制限などにより、大学や学部の内容を幅広く理解し比較する機会が減少、など）



- A. あまり興味がなくとも、単位を楽に取れる授業がよい
- B. 単位を取るのが難しくても、自分の興味のある授業がよい



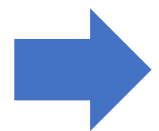
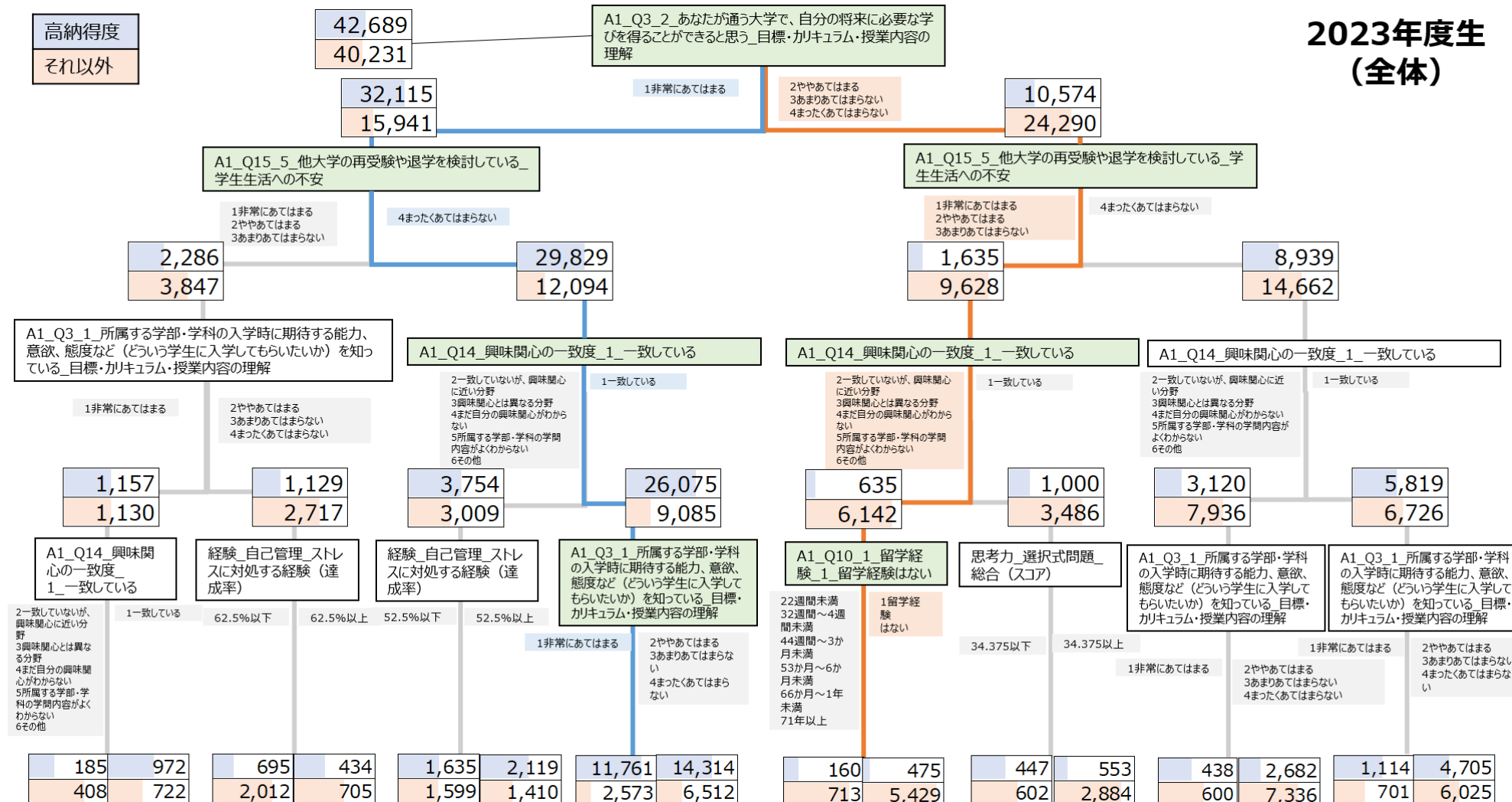
2020年度生で「楽単志向」が弱まるものの、2023年度生で「楽単志向」が強まる

→【検証すべき観点】 2023年度生の履修科目の変化（過年度との比較）…など

→【仮説】 2023年度生は、学修よりも大学生生活の充実を優先したがつているのではないか

（第一志望で、教育目標を理解していたとしても、「コスパ」を高めて友人との活動などに時間をあてる）

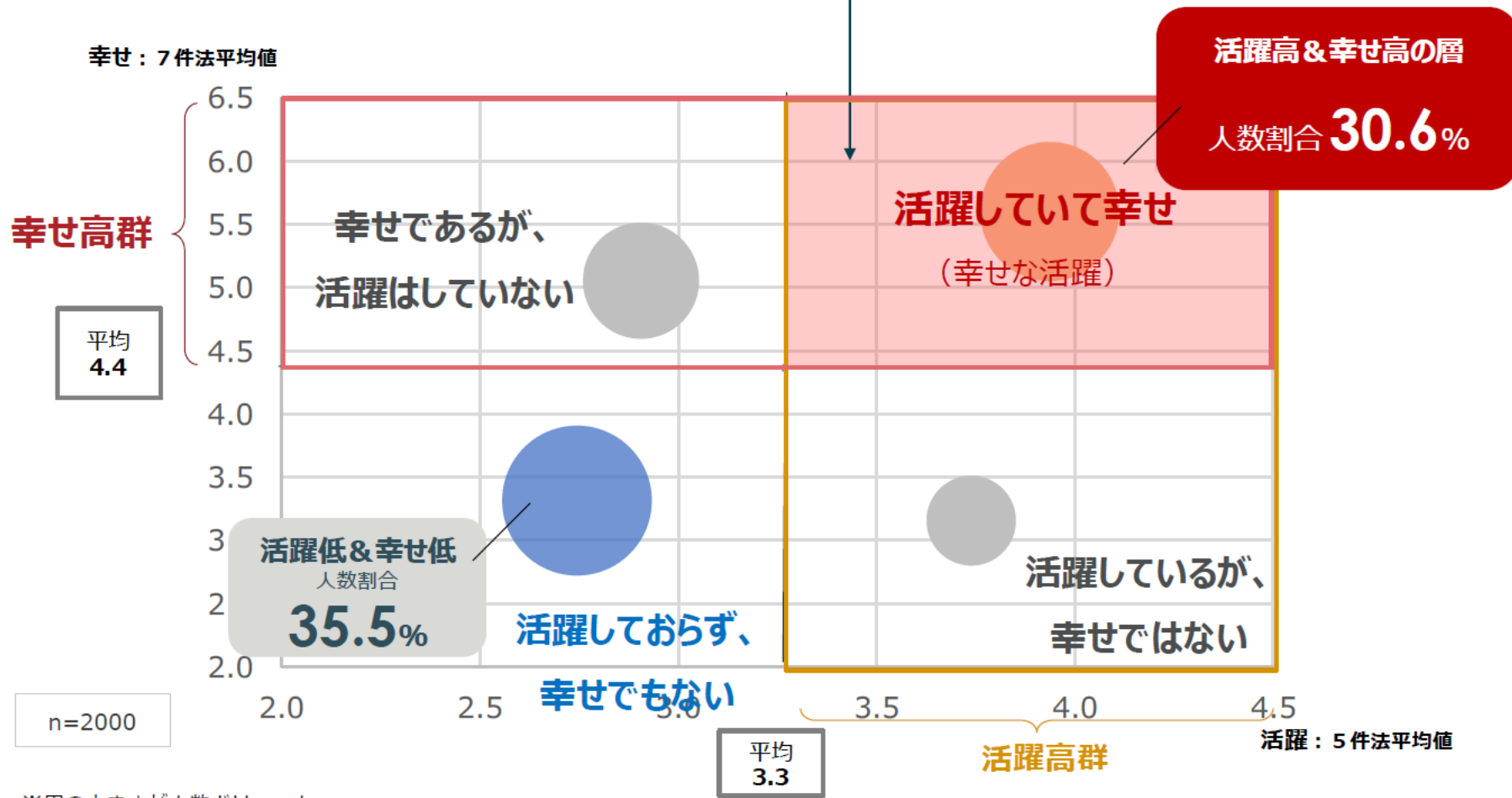
2023年度生
(全体)



「高納得度の学生」= ① 将来必要な学びを得られると強く思う → ② 退学の不安がまったくない → ③ 興味関心が一致 → ④ APをしっかり理解

1. 「文理融合系学部」を取り巻く環境の整理
2. 「文理融合系学部」の現状と大学生の変化
- 3. 「文理融合系学部」の学びと社会での活躍**

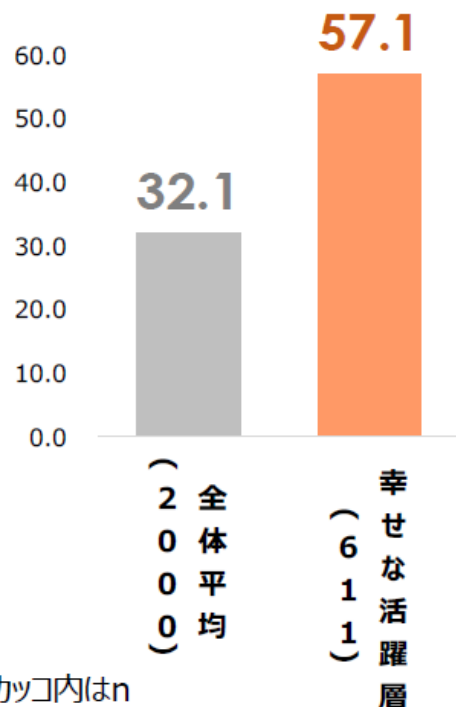
活躍していて幸せである層の特徴を分析し、その特性を明らかにする



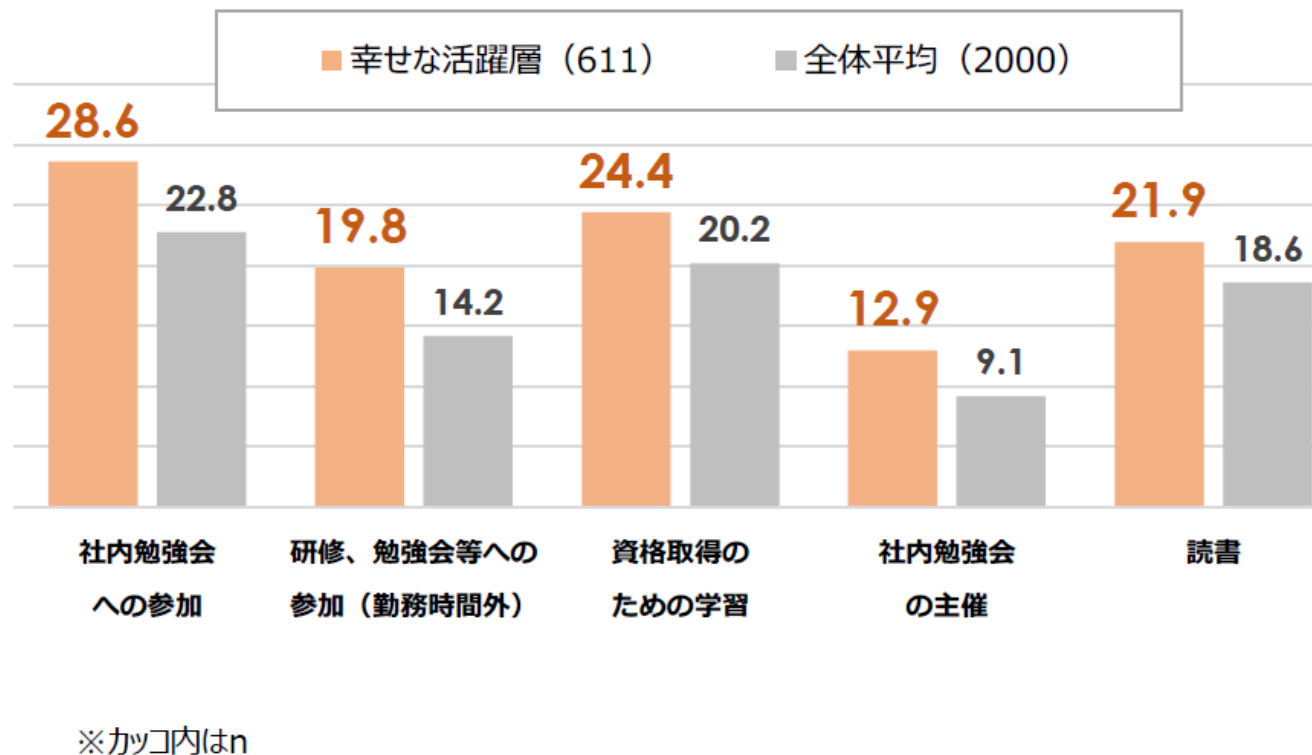
* パーソル総合研究所・ベネッセ教育総合研究所・中原淳「若年就業者のウェルビーイングと学びに関する定量調査」(2021年11月)

学習意欲

「学びや学習に前向きにとりくんでいる」
あてはまる合計 (%)

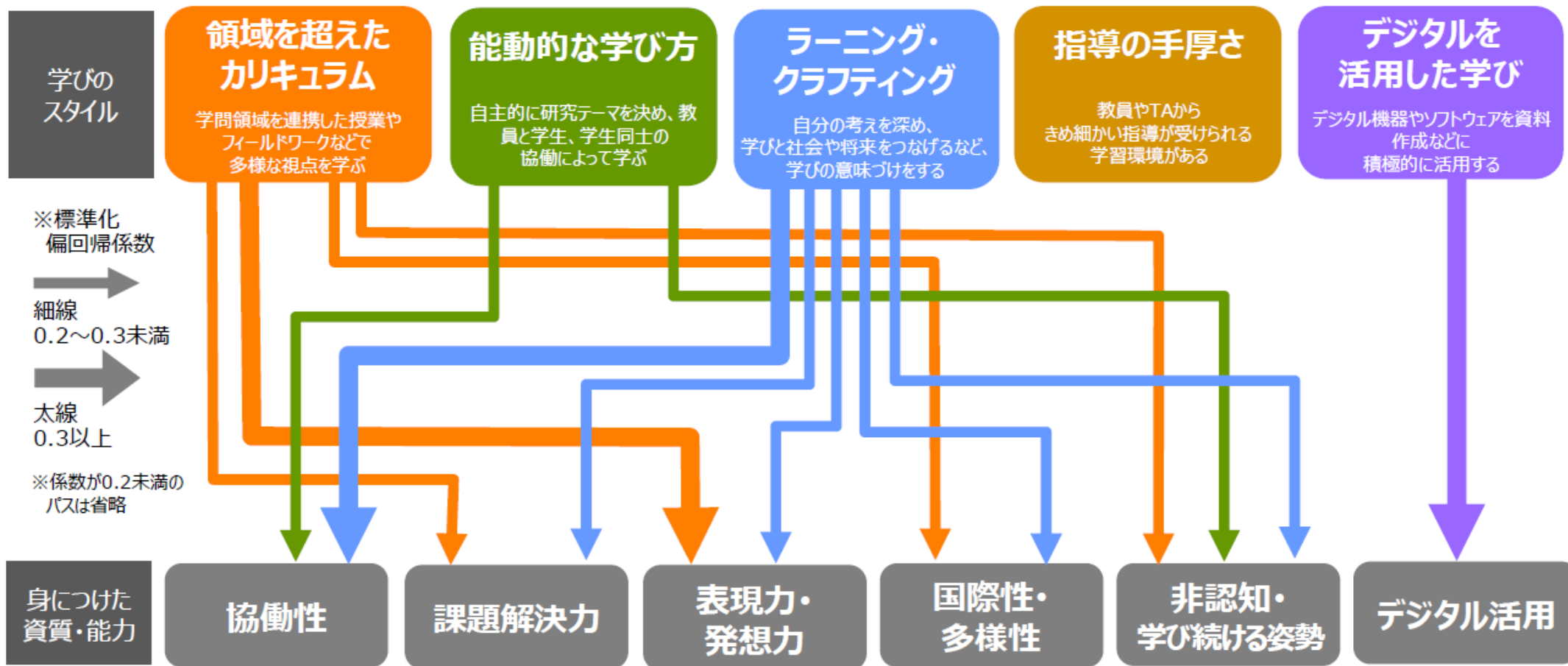


学習実施率 (差が大きいもの抜粋・%)



* パーソル総合研究所・ベネッセ教育総合研究所・中原淳「若年就業者のウェルビーイングと学びに関する定量調査」(2021年11月)

●「学びのスタイル」と「身につけた資質・能力」のパス解析 (n=2,000)



カイ2乗値： 82.614(df=13,p=0.000) GFI=0.993, CFI=0.996, RMSEA=0.052 ※パスの数値は標準化回帰係数、共分散、誤差間共分散は省略した

* パーソル総合研究所・ベネッセ教育総合研究所・中原淳「若年就業者のウェルビーイングと学びに関する定量調査」(2021年11月)



※各学びのスタイルを従属変数に、各非認知能力を独立変数に設定して、個人属性、入学難易度、学部系統などを統制した重回帰分析により、有意になったものを図示した(n=2,000)

※ パーソル総合研究所・ベネッセ教育総合研究所・中原淳「若年就業者のウェルビーイングと学びに関する定量調査」(2021年11月)

●それぞれの「身につけた資質・能力」を従属変数にした重回帰分析の結果

★★★p<0.001 ★★p<0.01 ★p<0.05

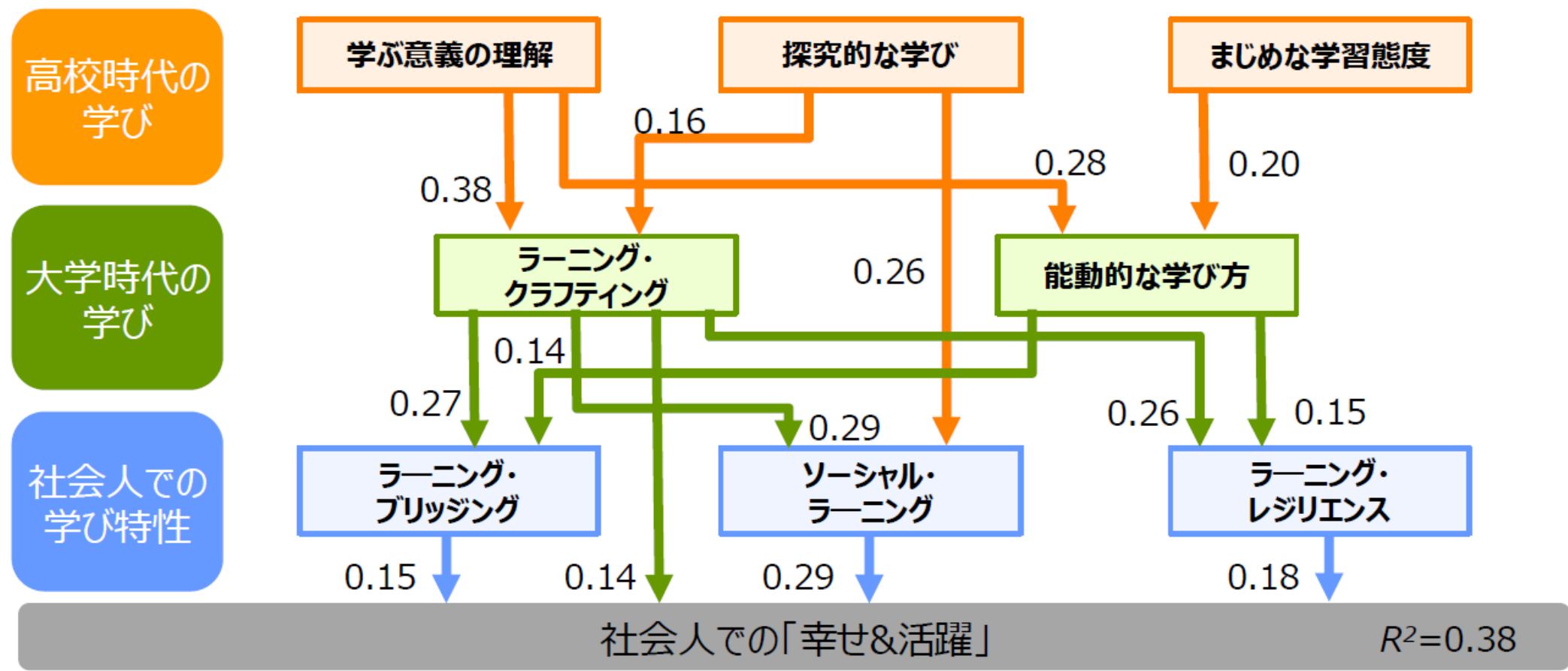
		「力を入れた」 の比率 ※「とても」+「まあ」	身につけた資質・能力					
			協働性	課題 解決力	表現力・ 発想力	国際性・ 多様性	非認知・ 学び続ける 姿勢	デジタル 活用
大学 時代 に 次 の 活 動 に 力 を 入 れ た か	大学の授業	67.8	★★★	★★★	★★★	★★★	★★★	★★★
	ゼミ、研究室活動	36.6						
	卒業論文や卒業研究	39.7	★★★	★★★		★★★	★★	★★
	課題解決型の学習、フィールドワーク（地域課題の解決など）	6.2	★★	★		★★	★	★★
	授業以外の自主的な勉強（資格試験など）	18.6	★	★★		★★	★★	★
	留学	6.7		★	★★★		★★★	
	サークルや部活動	33.2	★★★	★★		★		
	社会活動（NPO活動、ボランティアなど）	7.1	★	★	★★★		★★	
	大学内の自治活動（学生自治会、学園祭運営など）	6.7	★					
	授業や講義をサポートするTAなどの活動	5.6	★	★	★★	★★	★★★	★★
	アルバイト	48.0						
	就職活動	37.5				★		
	短期（1日～1週間：実稼働日5日程度）インターンシップ	9.3						
	長期（2週間以上）インターンシップ	6.5						
起業・団体設立（NPO設立など含む）	1.2							

※各資質・能力を従属変数に、大学時代の活動を独立変数に設定して、個人属性、入学難易度を統制した重回帰分析により、有意になったものを表示した。

(n=2,000)

* パーソル総合研究所・ベネッセ教育総合研究所・中原淳「若年就業者のウェルビーイングと学びに関する定量調査」（2021年11月）

● 学びのスタイル→身につけた資質・能力のパス解析 (n=2,000)



カイ2乗値: 267.06(df=15, p=0.000) GFI=0.972, CFI=0.971, RMSEA=0.092 ※パスの数値は標準化回帰係数、共分散、誤差間共分散は省略した

* パーソル総合研究所・ベネッセ教育総合研究所・中原淳「若年就業者のウェルビーイングと学びに関する定量調査」(2021年11月)

1. 「文理融合系学部」での教育に対する社会全体からの期待は高まっており、今後も新設・改組が続くと予測される
2. 「文理融合系学部」を志す高校生は増えることが予測されるが、高校より前の段階からのアプローチも求められる
3. 「従来からの学生像」が変化中、「将来必要な学びを得られる」と「強く思える」学生を増やしていくことが重要になる
4. 「領域を超えたカリキュラム」で能動的に学び、「学ぶ意味付け」を明確にすることが、多くの資質・能力の習得につながり、社会に出てからの「幸せな活躍」にも直結する



「文理融合系学部の現状と課題」とは…

社会的なニーズが高まる中で、「文理横断・文理融合人材」のさらなる拡大に貢献し彼ら・彼女らの「幸せな活躍」に直結するような教育プログラムを充実されるかどうか

➡ その検証と「学修者本人への還元」のための学修成果の可視化・共有を

-EOF-